

【授業科目】一般検査学実習Ⅱ General Specimen Analytical Technolgy PracticeⅡ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
大島 茂、小菅 優子	2年次前期	必修	1	30	実習	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>授業概要／一般検査学で学んだ尿以外の検体を扱った検査方法について実習を通して教授する。糞便検査、脳脊髄液検体に含まれる様々な成分を分析し、得られた検査データを解析できる能力を身に付けるため、実際にこれら検査方法を体験させ、操作の諸注意や検体の取り扱いについて講義する。寄生虫検査では光学顕微鏡を使用した虫卵検査で虫卵を証明する技術を体得できるよう教授する。実習形式で個人ワークやグループワークを通して学生が主体的に参加し、実習を展開する。*実務経験を持つ教員が授業を進める。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／提出されたレポートにコメントをつけて返却する。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>①便の潜血反応の判定を説明できる。 ②寄生虫の虫卵、幼虫、成虫の形態を観察し特徴が説明できる。 ③模擬検体を用いて虫卵検査を実施し、その寄生虫が鑑別できる。 ④髄液検査などの検査法を実施できる。</p>							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>第1～15回事前学修：指定の教科書を事前読み、解らない用語について調べておくこと（各60分）。 第1～15回事後学修：各回での学びを復習することで確認し、解らなかったことは調べ教員に質問する（各60分）。 *その他に、講義で学んだことを振り返るための課題を課すことがある（各120分）。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 糞便検査1：便潜血検査、脂肪便検査① 第2回 糞便検査2：便潜血検査、脂肪便検査② 第3回 髄液検査1：化学的検査 第4回 髄液検査2：顕微鏡学的検査 第5回 寄生虫検査1：虫卵検査 第6回 寄生虫検査2：虫卵検査 第7回 寄生虫検査3：虫卵検査 第8回 寄生虫検査4：虫卵検査 第9回 寄生虫検査5：虫卵検査 第10回 寄生虫検査6：虫卵検査 第11回 寄生虫検査7：虫卵検査 第12回 寄生虫検査8：虫卵検査 第13回 寄生虫検査9：虫卵検査 第14回 実技試験① 第15回 実技試験②</p>						<p>全て 大島・小菅</p>	
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評価配分によって総合的に判断する。 単元ごとのレポート 50%、 実技試験 50%</p>							
教科書	『最新臨床検査学講座医動物学第2版』 医歯薬出版 ※1年後学期「医動物学」で使用したもの			参考書等		なし		
学生へのメッセージ	<p>実習は各自、積極的に取り組んでください。 レポートの作成は自身のレポートを見て、次に同じ手技が出来るように方法、注意点を記載してください。</p>							